

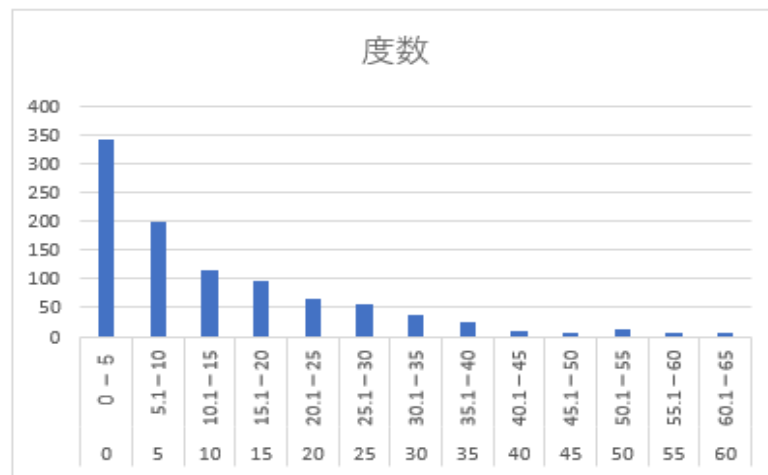
(令和2年4月01日)

< ワンポイントレッスン (理論・基礎知識) >
(マーケット・タイミング)

教科書的に言えば、「マーケットの将来のリターン予想に基づき、ポートフォリオのマーケットの動きに対する反応度をダイナミックにコントロールする」こと。個別銘柄を組み入れたポートフォリオであれば、組入れ比率を調整することになります。ポイントは、マーケットの転換点をきれいに捉える分析スキルや分析システムが求められることです。最近、多変量解析や機械学習などのアプローチが行われています。古い昔には、「市場は効率市場」との観点から、このようなアプローチによって利益を上げるのは難しいとの見解が研究者の間で展開されていました。

なお、マーケット・タイミングだけを取りに行くのであれば、先物の買い建てや売り建てで実行した方がコストは安くなり、かつ機動的に動くことができます。オプションも同様、戦略の幅が広がり有効です。

(順位相関底値圏銘柄比率の分布)



(データは2000年1月～18年8月まで)

上記は、順位相関底値圏銘柄比率の分布。少し古いのですが、2000年1月から18年8月までのデータです。0-5は、0%から5%内に収まった回数。30%を超える回数は少なく、30%を超えた局面では歪んだマーケットになっていると認識、歪んだマーケットは平均に回帰。マーケット・タイミングの判断に繋がります。簡単な例でした。